

平成27年度
茨城県学校長会
県南ブロック研修会
報告書



主催 茨城県学校長会県南ブロック協議会

平成２７年度 茨城県学校長会県南ブロック研修会
実 施 要 項

- 1 日 時 平成２７年１０月２１日（水） ９時１０分 ～ １２時４０分
- 2 会 場 ホテルグランド東雲（つくば市小野崎488-1 電話：029-856-2211）
- 3 主 催 茨城県学校長会県南ブロック協議会
- 4 趣 旨 学校経営は、人的物的条件を整え、一人一人の能力適性を開発して、人間性豊かな児童生徒の育成を目指す継続的な教育の営みにほかならない。
県南ブロック校長会は、学習指導要領並びにいばらき教育プランを踏まえ、一人一人が輝き、自立する子どもたちを育成する学校経営を目指し、校長の視点から研究を深めるものとする。
- 5 参 加 者 茨城県県南教育事務所管内各公立小・中学校長全員
- 6 来 賓 茨城県市町村教育長協議会会長、つくば市教育長 柿沼 宜夫 先生
- 7 講 師 茨 城 県 教 育 庁 学 校 教 育 部 部 長 森田 充 先生
茨 城 県 県 南 教 育 事 務 所 所 長 井坂 庄衛 先生
〃 次長兼総務課長 菅野 弘司 先生
〃 人事課長 遠藤 知昭 先生
〃 学校教育課長 青山 晴美 先生
〃 人事課管理主事 江原 保子 先生
〃 管理主事 大古 輝夫 先生
〃 管理主事 宮崎 智彦 先生
〃 学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長 土田十司作 先生

- 8 研究主題 「信頼される学校づくりのための校長の役割」
- 9 分 科 会

分 科 会 研究主題		内 容	発 表 者			講 師
			市 郡	校 名	氏 名	
1	教育課程 の実施	創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施	つくば みらい市	福 岡 小	荒井 馨	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 宮崎 智彦 先生
2		基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導	稲敷市	東 中	鈴木 裕之	茨城県県南教育事務所 学校教育課長 青山 晴美 先生
3	心の教育 の充実	多様な体験活動を生かした心を育てる教育	稲敷郡	舟 島 小	宮本 好弘	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 江原 保子 先生
4		規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導	取手市	戸 頭 小	鈴木 伸	茨城県県南教育事務所 学校教育課主任指導主事兼 生徒指導班長 土田 十司作 先生
5	学校経営 の改善と 現職教育 の推進	家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方	牛久市	牛 久 二 中	櫻井 達雄	茨城県県南教育事務所 人事課 管理主事 大古 輝夫 先生
6		人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育	つくば市	前 野 小	寺田 和央	茨城県県南教育事務所 人事課長 遠藤 知昭 先生

10 司会者・記録者・世話係

分 科 会	司 会 者			記 録 者			世 話 係		
	市 郡	校 名	氏 名	市 郡	校 名	氏 名	市 郡	校 名	氏 名
1	つくば みらい市	豊 小	富田 良一	土浦市	都和小	花沢 浩	土浦市	真鍋小	廣原 高志
2	稲敷市	江戸崎中	百瀬 伸也	かすみが うら市	下大津小	松浦 恵子	かすみが うら市	志士庫小	大倉 宏一
3	稲敷郡	阿見二小	赤上 富彦	利根町	文間小	藤岡 洋子	利根町	利根中	川村由紀夫
4	取手市	山王小	豊島 豊	つくば市	茎崎一小	柳橋 浩利	つくば市	茎崎中	石川 範仁
5	牛久市	下根中	岩田 博	石岡市	北小	櫻井 登代子	石岡市	小幡小	櫻井 光好
6	つくば市	大曾根小	櫻井 孝之	龍ヶ崎市	八原小	秋山 進一	龍ヶ崎市	馴柴小	古川 善久

11 日 程

8:30	9:10	9:50	10:00	11:30	11:40	12:10	12:40
受 付	開 会	移	分 科 会	移	全 体 会		昼 食
	全 体 会	動		動	講師指導	閉 会	
			発 表・協 議				

《 全体会・開会 》

- 1 開会のことば
- 2 県民の歌斉唱
- 3 主催者あいさつ
- 4 来賓・講師代表あいさつ
- 5 来賓・講師紹介
- 6 日程説明・諸連絡

《 分科会 》

発表20分 協議50分 指導20分

《 全体会・閉会 》

- 1 指導講評
- 2 閉会のことば

《 昼食 》

□ 会場

- ◎ 全体会（ 2 階 有明の間・暁の間 ）
- 第1分科会（ 2 階 朝日の間 ）
- 第2分科会（ 2 階 インペリアル ）
- 第3分科会（ 2 階 パレスルーム ）
- 第4分科会（ 1 階 ガーデンルーム ）
- 第5分科会（ 1 階 フォレストルーム ）
- 第6分科会（ 1 階 平安の間 ）

第1分科会

研究主題「教育課程の実施 創意を生かした特色ある教育課程の編成と実施」
ー活力ある学校の実現に向けてー

講 師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	宮崎 智彦 先生
発表者	つくばみらい市立福岡小学校	荒井 馨
司会者	つくばみらい市立豊小学校	富田 良一
記録者	土浦市立都和小学校	花沢 浩

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 発表内容への主な質疑内容（抜粋）

- ① 数値目標で楽しい学校やあいさつを100%としているが、楽しくない子への手立てや自己肯定感を高めるための工夫について教えていただきたい。

（回答）小規模校なので、友人関係や家庭環境等も把握しやすいので、カウンセリングの実施や市職員との連携にも努めている。

- ② 相互授業参観をする場合、小規模校における単学級の場合にじっくりと参観できないが、時間帯の工夫や教育課程で参考になることがあれば教えていただきたい。

（回答）1時間ずっと参観するわけにはいかない。事前の指導案検討会のときに全員で研修することにより、ポイントを絞って参観するようにしている。

- ③ 成果と今後の課題で自尊感情・自己肯定感が高まったとあるが、発表の仕方はどう変わったのか。また、外部講師を招いた校内研修会を実施する際に、師範授業をしてくれる講師の招聘で参考になる点をお聞きしたい。

（回答）校長等や保護者が参観したりする機会を設けたことにより、授業を静かに受けたり、自信をもって発表したりするなど少しずつ改善してきている。講師招聘については、筑波大附属小の発表会に参加して関係づくりを行ってきた。

- ④ 小規模校の学校経営で気をつけていることや工夫していることについてお聞きしたい。

（回答）職員の雰囲気として、変化を好まず自分たちでよくなっていこうという意識が少なかった。学校として活気があって、職員の意識を変えていきたいという思いが強かった。

児童数が増加した時期は、配慮を要する児童も多く、ベテラン教員ほど対応ができていなかったもので、市職員から対応の仕方を学ぶ機会を持った。一人一人への対応ができるように、全職員で臨むように心がけている。

- ⑤ 校内研修会で師範授業を実施しているが、先生方は師範授業を見て、どのように感じていたのかお聞きしたい。

（回答）師範授業は、技術的な面で大変参考になっている。授業に集中させ、聞かせ話をさせるなどの学ぶ力を育てるための指導技術を学ぶことができた。先生方は、今までの指導技術を振り返るとともに、自分で授業を実践しながら、問題提示の工夫や問いかけの仕方等の大切さを感じている。

3 講師指導内容

(1) 授業の充実について

- ① 研究委嘱を受けたことはとても意義がある。校内研修の充実を図るとともに、負担感を成果に変えていくことが大切である。

- ② 外部講師を招いた校内研修は、授業力向上を図るうえで近道である。一人一回の授業研や講師の模範授業など、求めていく方向が明確でしっかりしている。

- ③ 招聘した先生方の指導のことばの中に、校長（学校）として話してほしい内容を伝えることも効果的である。

(2) 縦割り班活動について

- ① 実施方法等、担当者が共通理解を図っておくことが大事な配慮事項である。

- ② 先生の立ち位置や班編制など学年学級をこえた共通理解や子どもたちが自主的な活動になるようなしかけも大切である。

(3) 児童理解への取り組みについて

- ① 一貫性のある指導なのか、共通理解されているのかは実践してみてもわかるものなので、しっかりと見取る必要がある。

- ② 発達障害の事例研については、専門的な講師や特別支援学校の先生を招き、授業中や休み時間等の様子を見ていただき指導してもらうことも効果的である。

- ③ 発達障害児への対応については、こういう対応をしていこうというだけでなく、やってはいけないことをしっかりと理解することも大切である。

- ④ スクールカウンセラーとの連携については、どこの関係機関につなげるのかしっかり判断し、つなげたらスタートであり終わりではない。保護者の不安を少しでも和らげていけるように努めてほしい。

第2分科会

研究主題「教育課程の実施 基礎・基本の確実な定着と一人一人を生かす学習指導」

講師	茨城県県南教育事務所学校教育課長	青山 晴美 先生
発表者	稲敷市立東中学校	鈴木 裕之
司会者	稲敷市立江戸崎中学校	百瀬 伸也
記録者	かすみがうら市立下大津小学校	松浦 恵子

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 発表内容への主な質疑応答（抜粋）

- ① 学力向上、人材育成、生徒の主体性の伸長などの成果を上げるために、どのようにして校長のリーダーシップを発揮し、職員への指導をしているのか。
（回答）省令主任を活用し、学校の課題を投げかけ、学年職員で話題にするように助言することで校長の意図や指導が広がり、課題に対する職員の意識化が図られていく。
- ② 授業研究における研究協議を活発にするための工夫は何か。
（回答）全職員で研究協議の時間を設けるのは難しい。小グループでの協議を行うことで効率化を図っている。小グループ協議では、ベテランや中堅教員がリーダーシップを発揮すると共に、若手教員がベテラン・中堅教員から学ぶ機会となり、教員全体の指導力向上につながった。
- ③ 中学校で特別活動を充実させるためには、小学校との連携が鍵となる。各小学校と連携する上での苦労や工夫は何か。
（回答）中学校エリアにおける小中連携として、小学校でも自問清掃に取り組んでもらいたい。そのため、参考となる図書を小学校に配ったり、来校する小学校の先生に自問清掃の様子を見てもらっている。

(2) 視点ごとの協議

- ① 児童生徒の興味・関心を高め、基礎・基本の定着を図る授業の展開について
 - ・テスト前の放課後に7校時目を設定し、全員参加で「〇〇塾」を開設した。
 - ・朝自習の時間を「朝学びの広場」として、課題を持たせて取り組ませる。管理職など担任以外の職員がTTで指導にあたっている。
 - ・全国学力・学習状況調査の問題を繰り返し活用するよう粘り強く職員に指導することで、職員の意識が変わり児童への働きかけも変わった。
- ② 教師の資質・能力を高める校内研修体制の工夫について
 - ・中学校エリアで教員の育成を図っている。
- ③ 児童生徒の主体性を伸ばし、自己肯定感を高める教育活動の工夫について
 - ・創立30周年をチャンスととらえ、生徒会を中心として記念となる企画を計画・実施させ、主体性を伸ばす機会とした。また、町内の中学校が連携して、生徒会の会議も実施している。

3 講師指導内容

- (1) 内容の濃い研究発表及び研究協議だった。
- (2) 県南の各校とも「生きる力につながる学力とは何か」を校長が意識して取り組んでいる。各学校の課題はそれぞれ異なるので、自分の学校の基礎・基本は何かを見極めて経営ビジョンを示すことが大切である。これがグランドデザインになる。
- (3) 学校を一つのチームにするための時間をどうひねり出すかは、校長のアイデア次第。児童生徒一人一人を生かすには、担任任せにせず、多くのスタッフで関わる大切である。
- (4) 自己肯定感を高めるには、事例にもあった通り小学校から施策が必要になる。
- (5) 校長として、同じ課題に対してどうアクションしているか。まだアクションの足りないところがあるから、学力の二極化等の課題が生じてくるのではないかと。時代の先を見て対策を講ずるのが学校である。
- (6) 様々な課題に対して成果を上げている学校があるので、校長は是非各学校を見て、良さを紹介して欲しい。（児童生徒作品への赤ペンメッセージ、自問清掃、QUテスト、栄養教諭による食育、保健室経営等）
- (7) 組織力を高め、幼稚園、保育園の頃から子どもを地域で見守ることで、素晴らしい地域、チームとなる。

第3分科会

研究主題「心の教育の充実 多様な体験活動を生かした心を育てる教育」
一児童と地域の実態に基づき、全職員の参画で創り上げる学校経営一

講 師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	江原 保子 先生
発表者	稲敷郡阿見町立舟島小学校	宮本 好弘
司会者	稲敷郡阿見町立阿見第二小学校	赤上 富彦
記録者	北相馬郡利根町立文間小学校	藤岡 洋子

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 学校の様々な目標設定の在り方について

① 学校教育目標、めざす児童・生徒像、組織目標等について

- ・目標の共有化、職員を一丸とさせる手腕（実態分析、施策設定、実行）
- ・組織目標の見直し、学習、学校行事、部活動の3本の矢をがんばる。「この学校を卒業してよかった」という思いで卒業させたいと考えている。
- ・全職員で一年を振り返り、様々な実態を踏まえ目標と具体的な施策、組織目標等にも取り組むことで、ボトムアップで参画意識を高めることができている。
- ・伝統的な校訓などがあり、学校教育目標を大きく変えにくいということもある。
- ・目標を立てたうえで、評価できるようにチェック項目を設定することが大切。
- ・教職員参画意識を高めるために、毎週、5：30～6：30まで「講師のための勉強会」を実施し、教師としての夢や希望をもてるようにしている。
- ・学校教育目標は、子どもが変わるので変えてもよいが難しい面もある。組織目標は実態をもとに三者で設定している。

② 目標を日常の教育活動の中にどのように意識付けをさせていくかについて

- ・ユニバーサルデザイン型授業について（個に応じた指導と誰にでも分かりやすい授業）

(2) 目標と関連した教育活動の見直しの在り方（特に体験的な活動の実施について）

① 「心の教育の充実」のために効果の高い具体的な教育活動について

- ・子どもの実態、課題から体験活動のねらい・目標を意識させる。ねらいの再確認・再検討により、教育活動につなげていく必要がある。
- ・体験の場として地域に、育てたい力の活用を地域に広げているところがよく分かる。
- ・外部人材を活用することで、様々な人と触れ合い、心の教育の充実になる。
- ・保護者の理解と協力を得るために行事創設の段取りを丁寧に行っている。また、地域との連携や協力がないとできないことが多い。地域の方への感謝の手紙や集会など、応援をもらえるような配慮が必要である。
- ・子どもを生かす活動や子どもの積極性を伸ばす活動の設定が必要
- ・体験から人と人との関わりを学ぶ活動の推進を図る。
- ・「百聞は一見にしかず」時に小学生には体験が大事である。「見てみて・やってみる」

② 次年度に向けての企画検討について

- ・統合に向けて実態把握し、対応策検討も実施していかななくてはならないので参考になった。

3 講師指導内容

(1) 発表内容について

① 校長がすべき事の発表で、「心の教育の充実」というテーマで学校教育目標と組織目標の設定の仕方、また心を育てるために体験活動をどう関連させていくかがよく分かる発表内容である。

② 第2次教育振興基本計画でも地域と学校がどうつながっていくかがあげられている。学校教育目標を達成するために、地域の教育資源をどう活用し、地域とどう連携を取っていくべきかが問われ大切になっている。

- ・ワンショットの体験活動から脱却していかななくてはならない。そのためには、学校教育目標や組織目標とどう関連させた体験活動をどこでするか、職員や子ども達にどんな力をつけさせたいのかを可視化する必要がある。この活動で子ども達にどんな力をつけたいのか、職員の意識を改革していかななくてはならない。そのためにも全員参画での目標設定は大変素晴らしい。
- ・学校評価と教員評価をどう連鎖していくのか。グランドデザインの重点項目は中期的なもの、それが組織目標になっている学校がある。組織目標は単年度の評価であり、人材育成、学校活性化のものである。組織目標をどう設定するかが課題である。処遇に反映してくる評価になることも考え、学校教育目標、それを達成するための中期的な重点項目、組織目標の関連をしっかりともっていかなくてはならない。
- ・学校それぞれの実態、課題がある中で、校長の考えを全員が同一方向でやれること、組織マネジメントをしっかりと行っていくことが重要である。
- ・体験活動も小中連携、小中一貫というエリアでの活動が重要となる。

第4分科会

研究主題「心の教育の充実 規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導」

講師	茨城県南教育事務所 学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長	土田 十司作 先生
発表者	取手市立戸頭小学校	鈴木 伸
司会者	取手市立山王小学校	豊島 豊
記録者	つくば市立茎崎第一小学校	柳橋 浩利

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

- (1) 保護者への要望をていねいに聞くことを大切にしたいとあるが、どのような要望があったのか。統合に向けて、教育目標や教育課程をどのようにまとめていったのか。

- ① 統合に向けた準備会の中のPTA部会で、事前に準備を進めていった。統合後には、登校班についての要望が多い。隣接している班や統合前からある班のメンバーと地区があり、さらに細かな調整が必要になった。

運動会についての要望が増えた。児童の規模が大きくなり、統合前にはそれぞれの学校で問題にならなかったことが課題となった。例えば、ビデオ撮影の場所が必要等という参観スペースに関する保護者の要望が多く出た。保護者の要望については、担任で止めずに、必ず管理職まで報告し、対応するようにしている。

- ② 教育目標・教育課程については、統合前から調整し、新しい校長に一任することになっていた。運動会の種目、総合的な学習の時間の内容については統合前から合わせていた。開校後に各校の指導してきたことの違いに気付くこともあった。例えば、ノートの使い方等細かな違いがあった。

統合ではなく、新しい学校をつくる意識をもつために、キャッチフレーズである「心をついに成しとげる」を大切にしている。

- (2) 統合における児童の交友関係を深める手立てをどうするか。また、小中連携の中で、規範意識を動のように高めていくか。

- ① 中学校では、部活動による交流や生徒会による交流が考えられる。統合後を踏まえて自ら生活のルールを作らせることは効果的だと考える。

- ② 統合前に、お互いの学校の体育祭・文化祭を合同でやることを提案されたが、お互いの学校にとって統合前最後の体育祭・文化祭という思いを大切にしたいので、実施しなかった。

合同の宿泊学習と合同のレクリエーションを計画し実施した。特に、レクリエーションは、生徒主体の内容で計画・運営し、効果が上がった。

- ③ 小中一貫教育の教育活動として、児童会・生徒会のリーダー研修会を実施している。各校の規範意識を高めるための具体策を話し合っている。各学校での具体化が、課題である。

- ④ 2つの小学校が進学する中学校に通う小中一貫教育週間を設けている。2つの学校の小学生が、中学校で生活と学習の場を同じにする。小小連携・小中一貫教育を体感することになり効果を上げている。また、小学校では宿泊学習を合同で実施している。

3 講師指導内容

- (1) 学校の統合は、大変だがやりがいのあることである。経営方針にあるキャッチフレーズ「心をついに成し遂げる」には、校長先生の学校経営への思いが込められている。児童、保護者、教職員の目指す方向性が明確に表されている。

- (2) 統合には、事前の準備が重要である。今までの各学校で積み上げてきたものや先行事例を使うことが効率的な統合に向けた作業になる。また、統合に向けての児童の交流活動は、大きな効果がある。小学校は、登校班の問題が大きい。統合前に、児童が通学路を歩いたり、PTAが点検したりすることは、トラブルの回避につながっている。統合前の組織活動の発想の中心は、児童のことが基本である。

- (3) 教職員の意識改革の中心が、編入ではなく新設校をつくるという方向性がよい。組織目標に生かされており、先生方の自己目標に連鎖している。また、組織目標・自己目標の進捗状況について月末のチェックが素晴らしい。

- (4) 規範意識を育てるためには、異学年交流・児童主体の集会有効である。イベントに終わるのではなく、継続的に行えるようカリキュラムを工夫することが大切である。また、ボランティアの活用では、校長のボランティアの方への心遣いが大切である。小中連携のよい取組としては、特別支援コーディネーターや養護教諭の連携がある。また、月1回の合同会議も有効である。

- (5) 今後の統廃合に際しては、「公立小・中学校適正規模について（指針）」、「学校統合に関するアンケート調査の結果」、「未来を担う子どもたちのこれからの学校づくりためーこれまでに統合した学校の対応例ー」（茨城県教育委員会HPからダウンロード可）を参考にしてほしい。

第5分科会

研究主題「学校経営の改善と現職教育の推進 家庭・地域社会の教育力を生かし、共に新しい学校づくりを目指す連携の在り方」

講 師	茨城県県南教育事務所人事課管理主事	大古 輝夫 先生
発表者	牛久市立牛久第二中学校	櫻井 達雄
司会者	牛久市立下根中学校	岩田 博
記録者	石岡市立北小学校	櫻井 登代子

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) グループ協議

- ① Eグループ 発表者：神立小 小祝 良信
 - ・近距離に所在する小・中学校の良さであり、中学生が小学校の読み聞かせ等に出向けることがよい。
 - ・校長同士の学校訪問が大切である。
 - ・教員同士が連携を取り合って、授業研究(月1回教科部会)を行っていて連携が深まる。
- ② Dグループ 発表者：紫峰学園北条小学校 根田 圭治
 - ・本校も小規模校は切磋琢磨できる教育環境がそろわない。また、人間関係が固定しがちである。つくば市では、施設一体型は義務教育学校となる方向です。さらに、平成28年度は教育課程の試行も考えている。
- ③ 「奥野学園構想」では地域へどのように働きかけているか。
 - ・文部科学省指定「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」「奥野学園」構想は、国際理解教育とESD教育を柱とした教育の充実を進めている。小規模校を統廃合するだけでなく、魅力ある教育を展開することで、地域と連携しながら地域も発展していくことをねらいとしている。そのために、地域と共に児童生徒が行事(歩く会等)に参加したり、奥野小二中合同学校安全情報連絡協議会を開催したりしている。(発表者：牛久第二中学校 櫻井達雄)
- ④ Bグループ 発表者：生板小学校 和田 和彦
 - ・稲敷郡河内町においても統廃合が進められ、小中学校の職員や地域の方との連携をとっている。河内中学校・金江津中学校の規模での部活動について課題がある。
- ⑤ 牛久二中での部活動について教えて欲しい。
 - ・部活の増加は生徒数・教員数を考えても無理である。試合に対しても、人数がそろわず、満たない人数で試合に臨んでいるのが現状である。本人の意向を大切に、他団体へのチーム参加は妨げない。(発表者：牛久第二中学校 櫻井 達雄)

3 講師指導内容

- (1) それぞれの市町村において学校の適正規模・適正配置の取り組みが進んでいるが、県南地域の学校数は減少傾向である。
- (2) 小規模校のメリットは、全教職員が学校担任として児童生徒に対してきめ細やかに、教育できる。反面、デメリットは、児童生徒の固定化した人間関係や大きな場面で消極的な態度になりがちである。本日の発表は、小規模校のメリットを生かし、デメリットを最小限に押さえるという視点での内容であった。
- (3) 牛久二中は東部に位置し、牛久市の半分の面積を占めている。地域コミュニティが成熟した地域である。地域の学校に対しての思いを地域の良さととらえている。さらに、奥野小と牛久二中の立地条件にも恵まれており、それもよく生かして教育活動を展開している。
- (4) 「奥野学園構想」は文部科学省指定「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」であり、2030年を見通したものである。
- (5) 本日の発表のすばらしいところは、
 - ① 小中合同職員研修等で教員の意識改革をしている。
 - ② 誠実で丁寧な対応で校長自身が地域の一員である。
 - ③ 小・中学校が隣接しているメリットを生かして、歩く会・朝の読み聞かせ等、小中交流がみごとである。特に中学校生徒会の提案であいさつ励行の呼びかけを継続されていることもすばらしい。
- (6) 多くの地域での廃校は、地域の危機と感じられるが、「奥野学園構想」は、存続を願う作戦であり魅力的な取り組みである。牛久二中のあたたかな学校経営は地域コミュニティの核となるであろう。

第6分科会

研究主題「学校経営の改善と現職教育の推進 人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育」

講 師	茨城県南教育事務所人事課長	遠藤 知昭 先生
発表者	つくば市立前野小学校	寺田 和央
司会者	つくば市立大曾根小学校	櫻井 孝之
記録者	龍ヶ崎市立八原小学校	秋山 進一

1 発表内容（発表要項を参照）

2 主な協議事項

(1) 発表内容についての質問

- ① 毎日の授業参観と教員評価の授業参観の関係について
- ② 人間性を高めるための手立てとその成果について
- ③ 若手研修における授業参観の指導として授業力アップのための「価値付け」について
- ④ 「校長室から」の発行頻度と活用場面について

(2) O J Tの推進について

- ① つくば市小中一貫教育の推進における「くすのき学園」としての研修について
 - ・若手とベテランの二極化対策
 - ・若手教員を指導するミドルリーダーの育成
- ② 若手とベテラン，若手と若手，ベテランとベテランの組み合わせによる研修効果について
- ③ 市教育委員会の施策（2年目，3年目の教師，経験の少ない講師の指導）について
- ④ 若手教員同士による，アフター5の自発的な研修について
- ⑤ 授業参観後の指導時間の確保について（中学校で，面接指導の時間を生み出す苦労）

(3) 教職員一人一人の経営参画意識を高める取り組みについて

- ① 若手教員の経営参画意識を高めるための具体的な事例について
 - ・やる気を引き出した校務分掌の例（司書教諭，体育主任，市の体育主任会の責任者）
 - ・小中一貫教育の研修会において責任ある役割（司会，開閉会式のあいさつ，謝辞等）を若手に任せたことによる研修会への参加意識・態度の変化の例
- ② P D C Aサイクルとボトムアップによる意識の高まりについて
 - ・企画の提案では，例年通りではなくプラス一工夫を加えさせる

(4) 感想その他

- ① 先生方が生き生きと取り組んでいる様子が見える。
- ② 多くのことに取り組み全て順調な素晴らしい実践である。苦労したことを紹介してほしい。
- ③ 校種，学校規模等の実態に応じて様々な工夫が必要であることが実感できた。

3 講師指導内容

(1) 発表内容について

- ① 学校経営の要としての校長のヴィジョンが職員に浸透している素晴らしい実践である。
- ② ベテラン教諭の大量退職と若手教員の増加による学校の急激な変化にどう対応するか
 - ・定年退職者数，新規採用者数，30代の教員数，再任用者数の現状と課題
 - ・若手の育成，ミドルリーダーの育成，ベテランの意欲持続の重要性
 - ・若手育成効果の大きかった実践例として，中学校エリアによるO J T研修の紹介

(2) 所課長訪問から

- ① コンプライアンスについては，簡単なことがきちんとできること，当たり前のことをきちんとやらせることが大切である。
- ② 訪問で指導されたことを学校経営のP D C Aサイクルにどう位置付けるかが重要である。